

株式会社三洋

事業計画名

高速自動裁断機の導入による生産性向上と新規事業展開

保冷ボックスの大口受注に対応できる社内体制を確立
高品質、短期納入で新規市場に販路拡大を目指す



高速自動裁断機導入で、これまで手作業だった箇所が自動となり、生産効率がアップした。

事業の背景・目的

保冷ボックスは、当社の商品の中でも売上、利益率が大きい。ただ、非常に波のある商品で、一度に大口の受注がきた時は外注に出して対応したり、まったくこない時もある。この波をできる限り小さくするためには、生産効率を上げる必要がある。大口の受注がきた場合、

社内に対応するために生産キャパを大きくすることが課題になっていた。また、当社の競合は中国であり、価格がネックになっているが、その点も生産効率をあげることで充分対抗でき、品質、納期での優位性で受注拡大を狙える。生産効率を上げるために機械化を導入した。

企業データ

農業資材/パイプハウス、軽量鉄骨ハウス、鉄骨ハウス、農業用ビニール、遮光シート
クロス袋/クロスコンテナ、通袋
シート類/防災・建築養生・野積シート、他
包装資材/ラップ各種、ポリ袋、PSPトレイ、他
梱包資材/布・クラフト粘着テープ、他
物流資材/保冷ボックス、保冷バック、保冷カバー



代表取締役 石田 伸

代表者	石田 伸
住 所	東田川郡三川町大字横山字大正27
電 話	0235-66-3685
FAX	0235-66-4188
e-mail	info@sanyo-m.co.jp
URL	http://www.sanyo-m.co.jp
設立年	昭和43年12月
資本金	3,000万円
従業員	75名

事業内容

保冷ボックスを受注した場合、見積もり、図面作成、材料手配となるが、図面は寸法を割り出し、エクセルで作成していた。次に投入した材料を人の手で引っ張って伸ばす延反作業に使用する材質によって、2人から5人の工員を要していた。片側側面を揃えた材料を図面に従い、計測、罫書き作業及び部材取付けポイントをボールペン、マジックで罫書き作業を行い、市販のカッター

で裁断作業という流れになっていた。

すべて人の手による作業であったため、時間もかかり、裁断においては50枚程度重ねて切るので、1、2mmの誤差が生じ、後工程の縫製作業に影響が出ていた。

高速自動裁断機を導入したことで、見積もり、図面作成、材料手配はすべてCADで処理、そのデータをそのまま連動させ、延反作業、罫書き作業、裁断作業まで機械化されたため、高精度で高能率な一連加工が可能となった。

事業の成果

図面通りに正確で早い裁断までの一連の加工が可能になったことで、その後工程である縫製・加工工程も確実なものとなった。材料をセットすれば、裁断まで自動で動くため、要する時間は、導入前の手作業時と比較して、約5倍からものによっては8倍程度早くなっている。完成品の品質においても成果として現れている。

競合相手である同業他社、特に中国等海外との競争においては、価格面がクリアできれば納期をいかに早くすることができるかが鍵となる。機械化により、大口の受注に対しても、自社内で対応し、高品質な製品を早く納品することが可能になった。

今後の展望

保冷ボックスの場合は、決定までにとっても時間がかかり、いざ決まると納期までの時間が短い。そのためにも、確実な情報収集と社内体制が不可欠だ。

今後、大幅に景気がよくなるとは考えにくく、景気が悪くなれば市場も縮むだろうが、需要がなくなるわけではない。当社の生産体制を活かし今後は海外市場、これまでとは違った業界市場にも販路拡大を目指していく。



保冷ボックスはすべて顧客ごとのオリジナル製品。試作から納品までスピーディに対応。